

令和2年度 第2回 学校運営協議会報告

【日時・場所】 令和2年11月20日（金）18時30分～20時 本館1階 小会議室

【出席者】

学校運営協議会委員：真野 正道（元府立学校長）、
林 浩子（寝屋川市立第一中学校長）
巽 順子（地域住民）、松下 孝雄（学校関係者 北水会）、
高崎 美和（卒業生保護者、地域住民）、
松本 一恵（保護者 定時制 PTA 委員長）

准 校 長：小早川 真一

事 務 局：伊藤 牧子（教頭）、住友 敏弘（事務部長）、沼田 慎也（首席）、
鈴木 俊哉（教務主任）、田代 興太郎（進路指導主事）

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 准校長あいさつ
- 4 授業見学

2 限目 授業見学 コミュニケーション英語Ⅱ 1-2 森田教諭
地学基礎 4年理科選択 大江教諭

【授業見学の感想】

- ・説明がわかりやすく、生徒が集中して授業を受けていた。
- ・授業の目当てが黒板に掲示されていて、分かりやすかった。
- ・チョークの色の使い分けが、わかりやすく良かった。
- ・先生の分かりやすい授業をしようという熱意が伝わる授業だった。オンライン授業では伝わらない、生の授業の価値を感じた。

5 協議

(1) ①第1回 授業アンケート結果（教頭）

グラフを見ると経年で全体的に右肩上がりになっていて、生徒は授業に対して肯定的に感じている。一番高い数値になっているのは、生徒自身が積極的に授業に参加しているかという項目である。分かりやすい授業を行うことで、生徒もモチベーションを高く保てていると感じている。この結果に慢心することなく、学校全体で授業の質を上げていきたい。

提言・意見

- 生徒から「どんな授業なら受けたいと思うか」「どんな授業は受けたくないか」を掘り起こしてみてもどうか。
- これからの授業は従来の教員から生徒への一方向の授業ではなく、対話的な学びが求められるので、今後はそういった取り組みを、積極的に取り入れてもらいたい。
- 少人数で授業を受けられることは、生徒にとって、内容を理解するのに重要な要素であると思われる。

②行事について、図書室の利用人数について（教頭）

体育祭は例年6月に実施していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で10月に延期した。また、保護者の見学を取りやめ、生徒のみで種目も減らして実施した。それでも、生徒はいきいきと参加してくれた。明月祭も例年は2日間で行っているが、今年度は1日開催とし、飲食の模擬店を取りやめとした。こちらは保護者の参加を限定的に可能として行った。また PTA 主催のタッセル作りも好評であった。図書室の利用人数は年々増加傾向にあり、今年度は6月からの登校開始にも関わらず、前年度と同じくらいの人数がすでに利用している。

提言・意見

○図書室の利用が増えているのは、大変良いことであり、図書室だけでなく、学校周辺の図書館の紹介などを行うこと本を読む生徒が増えてほしい。

③新型コロナウイルス感染防止の取り組み（教頭）

マスクの着用や距離の取り方を学校全体で取り組み、安全に留意して行事を行うなど対応してきた。また、明月祭の出し物として、保健委員が中心となって新型コロナウイルスに関するアンケートを実施した。マスクは周囲の人のためにも必要と思っている生徒が8割近くいるなど、生徒の実情が把握できた。

④各学年の様子（教頭）

（1年）学年目標①「当たり前ことができ、メリハリをつけられる生徒を育てる。」

学年目標②「自らチャレンジし、“考動力”を身につけさせる。」

2つの目標を軸に進めている。前期では、考査前に放課後に各クラスで勉強会を開くなどの取り組みの成果もあり、8割の生徒が全単位修得することができた。後期は単位を落とした生徒もサポートしていきたい。7月の学年レクリエーションでは想像以上に生徒が楽しんでいて、クラスの中でつながりも生まれた。明月祭では各クラスの模擬店で準備・運営で生徒が頑張ってくれた。

（2年）ほとんどの生徒が前期単位を修得できており、進級に向けて後期も頑張らせた。

一部で長欠者も出ているが、後期から心機一転登校できるように担任がサポートしていく。

明月祭に向けてクラスで作業する時間ができて、クラスのつながりもできてきている。

（3年）全体としては落ち着いて授業を受けることができています。体育祭ではクラスで団結した様子が見られ、明月祭では学年で協力して1つの出し物を行った。小さいお子様の来場者にも優しく接する生徒の様子が見られた。修学旅行へは新型コロナウイルス感染防止に努めながら実施の予定である。3年制コースの生徒は卒業に向けて授業に一生懸命に取り組むと同時に、卒業後の進路決定に向けて頑張っている。

（4年）前期卒業式で2名が卒業。進路決定者が次々と出てきている。卒業まで残り3か月半、生徒は社会にでるための準備をすすめ、各々の課題に向き合っています。

（2）分掌等の取り組みの進捗状況について

1. 教務関係の説明（鈴木）

- ・前期の単位修得が、前年度に比べて増加している。
- ・ICT機器の活用が活発になっており、活用事例を職員会議で共有した。
- ・図書室利用が活性化しており、生徒の来室者数が増え、授業での利用回数も増えている。

2. 生徒指導関係の説明（河本が授業のため不参加。教頭が代理で報告）

- ・学校は非常に落ち着いている。世間の禁煙ブームの影響か、生徒の喫煙指導も少ない。
- ・後期に向けて、遅刻や中抜けが増えがちなので、未然防止に努めた声掛けを積極的に行いたい。
- ・新型コロナウイルスの影響で様々な制約があるが、教職員の理解・協力、生徒たちの理解・協力があり、最大限の努力をした内容で実施できている。

3. 支援関係（沼田）

- ・学校が落ち着いてきている反面、内向的に課題を抱える生徒は増加傾向にあると感じる。
- ・日本語支援が必要な生徒、障がいのある生徒、学力の支援が必要な生徒など多岐にわたり支援が必要である。
- ・SSWは外部機関と繋がる場面で活躍していただいております、SCは生徒のカウンセリングだけでなく保護者のカウンセリングも実施した。
- ・教育相談委員会は月に1度開催しており、SSW、SCの方も参加し、生徒の情報交換を密に行っている。
- ・コグトレ（認知機能強化のトレーニング）の活用をスタートさせ、前期終了を迎えた。生徒は、一生懸命取り組んでくれたので、改善を重ねてより効果が得られるものにしていきたい。

4. 校内の活性化・職務の効率化について（沼田）

- ・教職員全体の生徒理解を深めるため、コグトレの講師を招聘して、教職員研修を9月に実施した。
- ・職員室にカラーコピー機を導入し、仕事の効率化を図っている。
- ・経験の少ない教員の学びの場として、全日制と相互の授業見学を年明けに行う予定である。

5. 進路関係の説明（田代）

- ・今年度から「進路通信」を不定期に発行し、就職制度、入試制度の変更などを通知している。
- ・「総合的な学習の時間」の講座である、「就職セミナー」で、今年度の特殊な就職試験に向け対応している。
- ・大阪府下3割の求人縮小ではあるが、順調に内定者が出てきている。

提言・意見

- コロナ禍の大変な時に進路を決めていかないといけない状況ではあるが、何とか希望の進路につなげてあげてほしい。